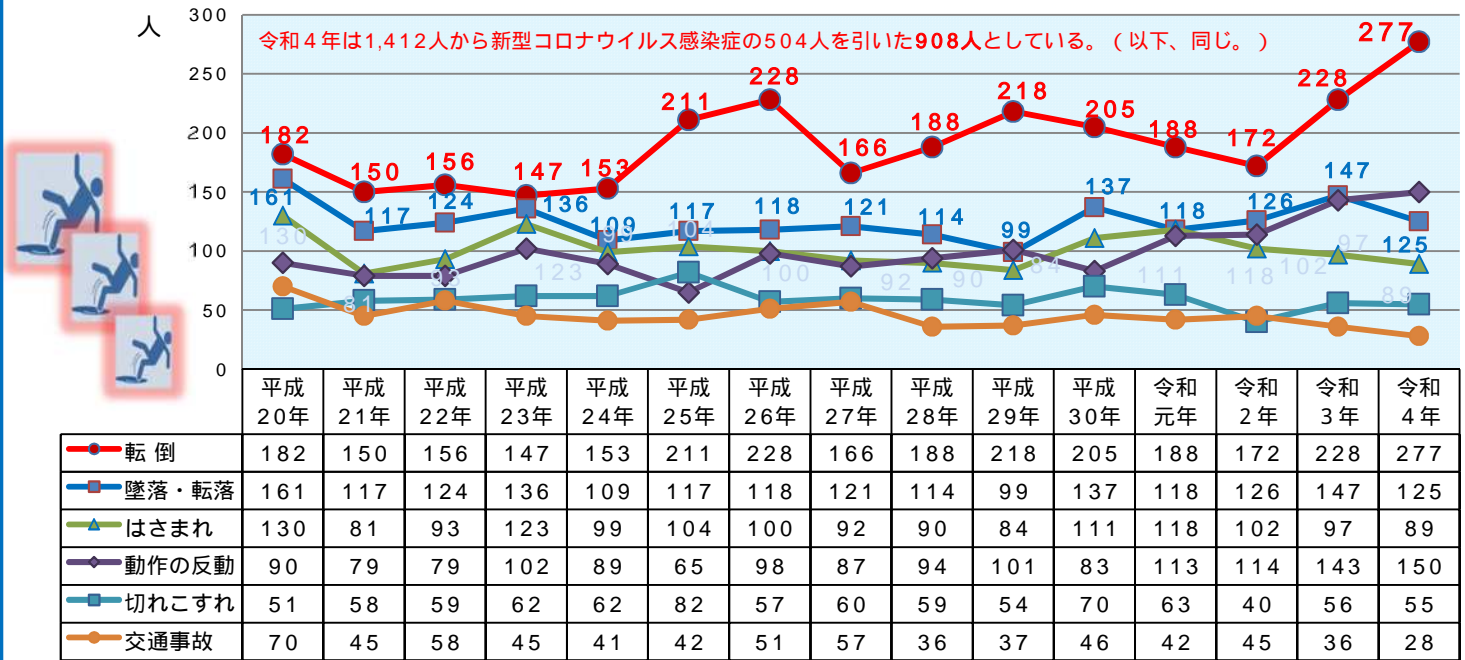


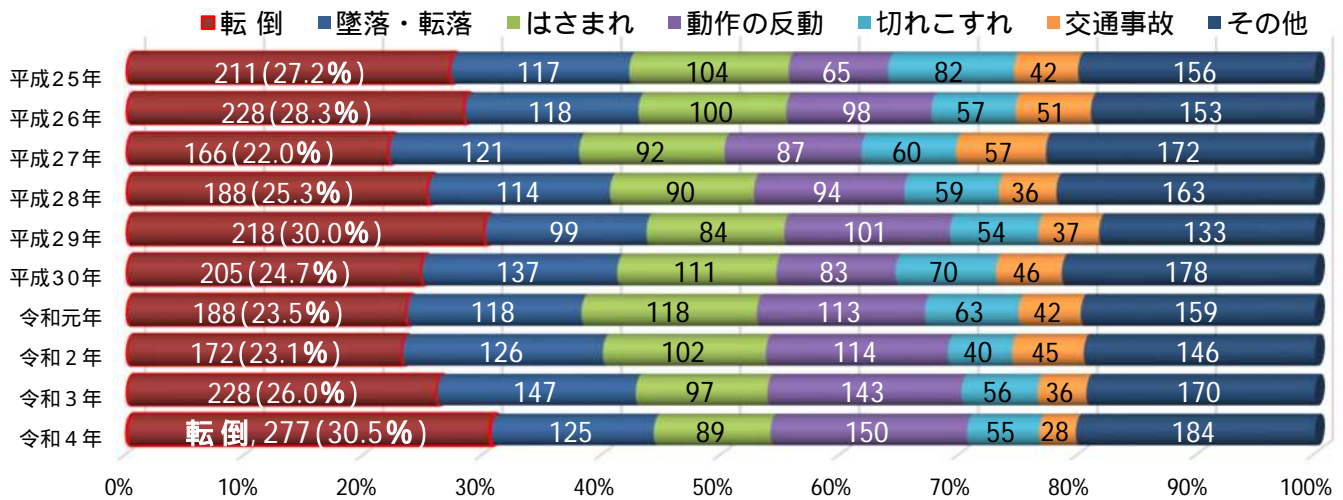
山梨県内における「転倒災害」の現状

1 主な事故の型の発生推移（平成20年～令和4年）「転倒」災害が急増しています！ 山梨労働局

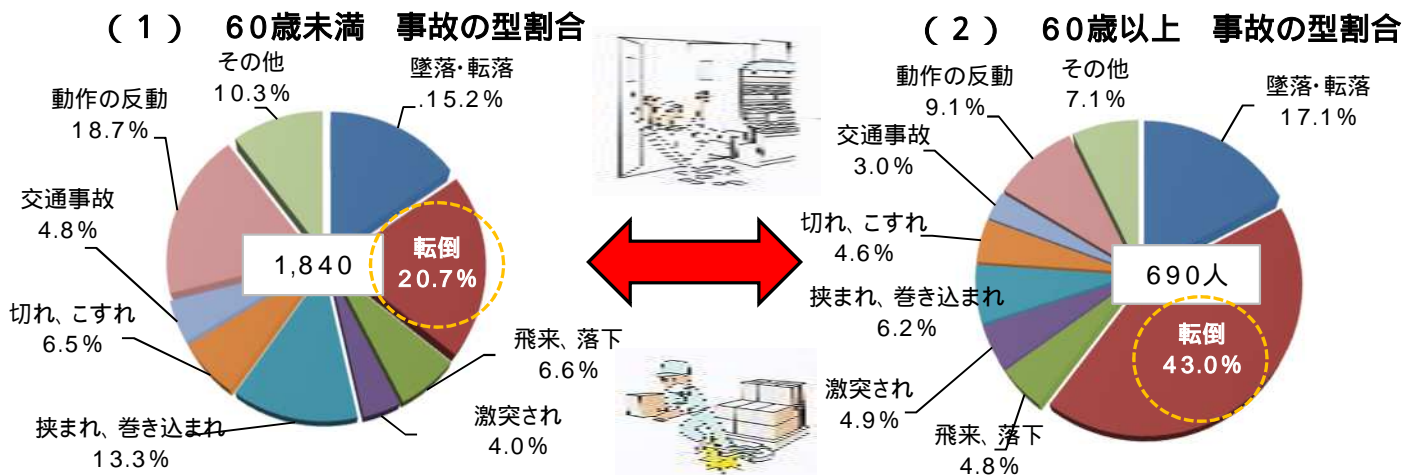


平成30年以降3年連続して減少していたが、令和3年以降急増し、令和4年は277人と過去最高の件数となった。平成20年以降は「転倒」災害が常に事故の型のトップとなり、令和4年は初めて転倒災害が全体の3割を超えた。

2 主な事故の型 発生割合（平成25年令和4年）



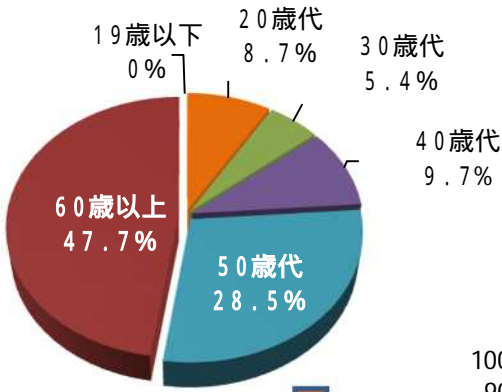
3 事故の型別（60歳を基点とした比較）の状況（令和2年～令和4年の3年間：2,530人）



60歳以上の転倒災害の発生割合は60歳未満の2倍以上となっている。

4 令和4年 転倒災害の年代別発生状況

(1) 転倒災害の年齢別発生グラフ

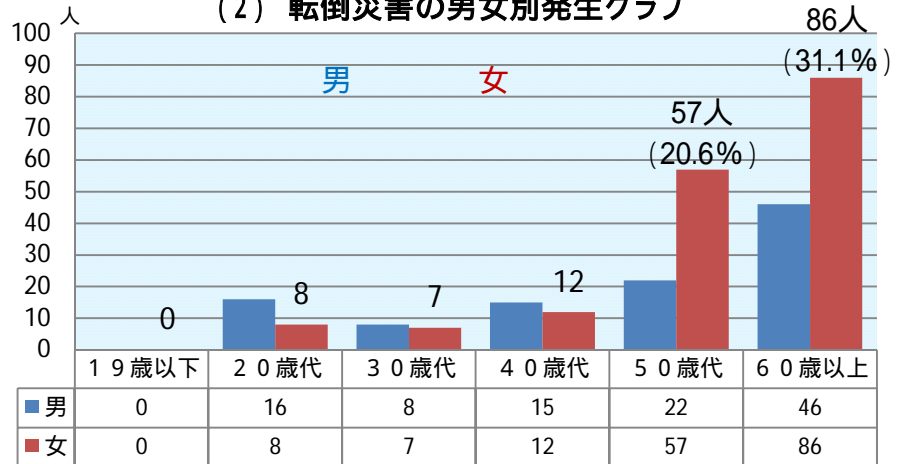


転倒災害の約半数が
60歳以上の労働者！

(1) 令和4年の転倒災害の277人の被災者を年代別にみると、60歳代が最も多く47.7%を占め、次いで50歳代28.5%、40歳代9.7%、20歳代8.7%、30歳代5.4%の順となっており、転倒により被災する方の約半数が60歳以上の高齢者である。

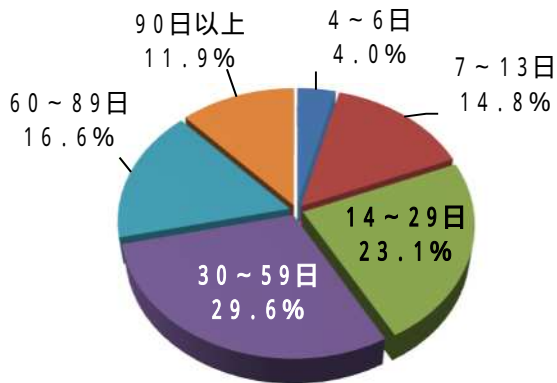
(2) 50歳代及び60歳代は女性労働者の割合が増加傾向であり、転倒災害の277人のうち、50歳以上の女性が143人と半数以上を占めている。

(2) 転倒災害の男女別発生グラフ



5 令和4年 転倒災害の休業日数別発生状況

(1) 転倒災害の休業日数別発生グラフ

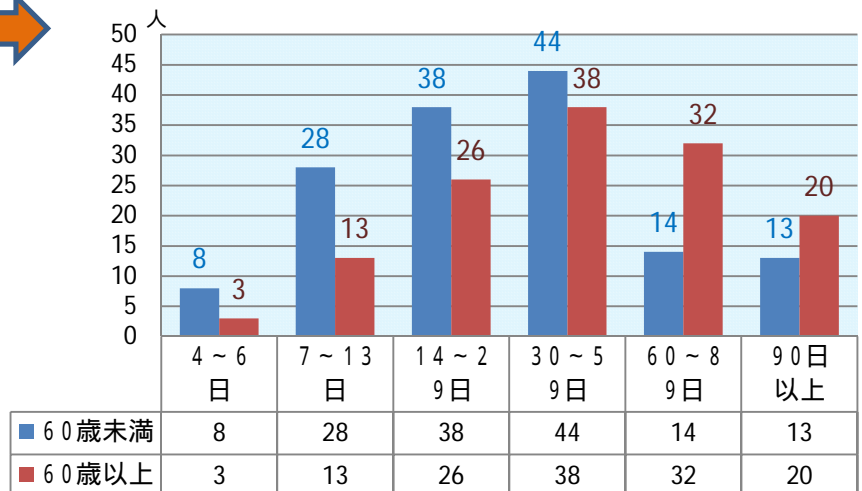


転倒災害が発生すると
約6割の方が
1か月以上の休業となっている！

(1) 令和4年の転倒災害277人の被災者を休業日数別にみると、30~59日が最も多く29.6%、次いで14~29日が23.1%、60~89日が16.6%、90日以上が11.9%となっており、「転ぶ」という単純な災害でも、ひとたび転倒災害が発生すると約6割の方が1か月以上となる休業災害となっている。

(2) 60日以上の長期の休業になるほど高齢労働者の割合が多く、特に休業90日以上の災害については、年齢に関係なく、令和2年26人、令和3年31人、令和4年33人と年々増加しており、重篤な災害に直結する可能性があるため、職場の環境改善、労働者への安全教育等の徹底が重要である。

(2) 転倒災害の年齢・休業程度別発生グラフ



6 「転倒災害」の発生背景及び山梨県内の転倒による死亡災害の事例

転倒による労働災害の増加は、「高齢労働者の増加」と密接な関係があり、高齢者は筋力や反射神経が衰えている上、特に女性は骨粗しょう症などにより骨折しやすい傾向があります。このため、若いころに比べて転倒しやすく、また転んだ際に大きなけがにつながりやすいのです。

また、高齢になると重量物を運ぶような作業は難しいため、サービス業等の第3次産業に就く傾向があり、就職先も中小事業者が多くなります。しかし、第3次産業と中小事業者は安全衛生対策の取り組みが遅れている職域であるため、安全衛生対策が十分でない職場環境で高齢者が働くことが、転倒事故の増加に繋がっています。

山梨県内における「転倒」による死亡災害はここ10年間で、作業面で足を滑らせて転倒する災害やフォークリフトの運転中にバランスを崩して乗り物とともに転倒する災害と言った単純な災害で2人が亡くなっています。

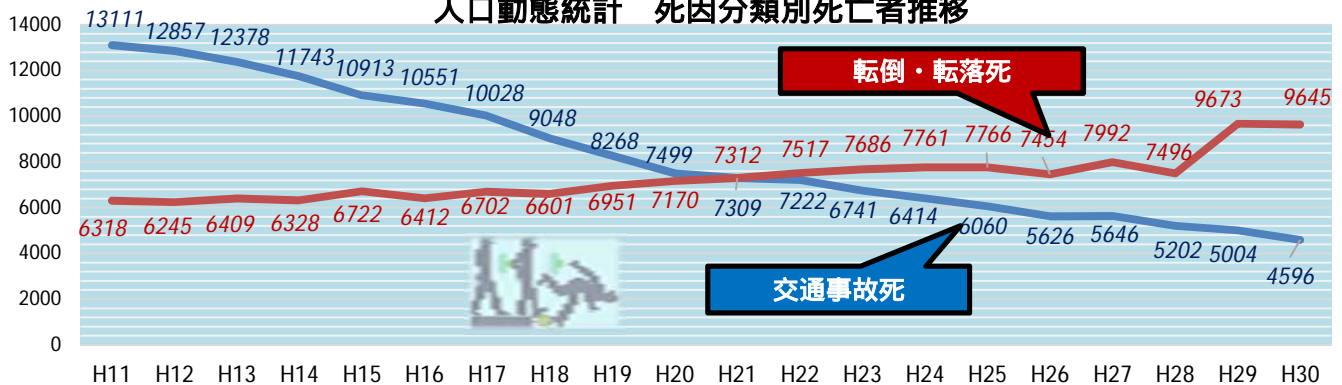
また、厚生労働省「人口動態統計 死因分類別死亡者数の推移」によれば、職業生活を含めた一般生活の中でも転倒・転落で死亡する方は高齢者を中心に、交通事故で死亡する方より多く、転倒災害の防止はあらゆる人々にとっての重要課題となっています。

山梨県内における最近の転倒による死亡災害一覧

番号	発生日	年齢	業種	事故の型	災害の概要
	発生地				
1	H25 1. 15 富士川町	56 男	建設業 (道路建設 工事業) 土工	転倒 通路	降雪のため工事現場に向かう林道が不通となったことから、同僚がトラクター・ショベルで雪かきを行っていたところ、被災者は雪かきを行っていた作業現場から少し離れた乗用車に歩いて戻る途中、アイスバーンとなっていた下り坂の道路で転倒し頭部を負傷した。
2	H30 2. 6 中央市	52 男	製造業 作業員	転倒 フォーク リフト	コンクリート製造中に発生した砂を貯めていた容器（バケツ）を、フォークリフトのフォークに巻き付けたフック付きワイヤーロープで吊り上げ、フォークリフトのフォークをほぼ最大限まで引き上げた状態で走行中、フォークリフトが横転し、フォークリフトの下敷きとなったもの。

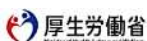


人口動態統計 死因分類別死亡者推移



資料：厚生労働省「人口動態統計 死因分類別死亡者数の推移」より。

平成11年に約1万3千人だった交通事故死は、平成30年には約3分の1の4千人台に減少しています。一方、転倒・転落による死亡は、増加を続け、平成30年には9千人台後半に達しています。



職場の安全を応援する情報発信サイト/
職場のあんぜんサイト

= 労働災害事例 =



死亡災害や重大災害等の事例について、事故の型別に発生状況や原因・対策をイラスト付きで紹介していますので、災害防止対策の参考にしてください。





小さなことからコツコツと…
職場での転倒・腰痛予防に努めましょう!



滑り^{!!!}の予防ポイント

水や油で濡れた床、サイズが合っていないか
ったり靴底がすり減っていたりする靴
などは、転倒の原因になります。

- 床の清掃をこまめに行い、水や油などは取り除くように
しましょう。
- 滑りやすい場所には、**注意を促す標識**をつけましょう。
- 転倒予防には**靴選びも大切**です。足のサイズにきちんと
合わせて、靴底が滑りにくいものを選びましょう。また、
靴底が大きくすり減ってきたら、すぐに買い換えましょう。



つまみ^{!!!}ずきの予防ポイント

歩きスマホや荷物の放置などは、つま
ずいて転倒する危険性があります。

- スマホなどを見ながら歩かず、**足元が見える状態**で歩
きましょう。
- 床の段差は、スロープで解消する、トラテープで段差
をわかりやすくする、**注意喚起の標識を掲示**するなど
の対策を行いましょう。
- 荷物は、通路、出入口などに放置せず、日ごろから**整
理・整頓**を行いましょう。



踏み^{!!!}外しの予防ポイント

照明が暗い、大きな荷物を抱えている
など、足元の見えづらい状態は階段の
踏み外しにつながります。

- 階段付近は十分な明るさを確保し、**足元が見える状態**
で昇り降りしましょう。
- 階段には物を放置せず**、日ごろから整理・整頓を行
いましょう。



腰痛^{!!!}の予防ポイント

重い荷物の持ち上げなど、腰に大きな負
担のかかる作業は非常に危険です。また、
滑り、つまずき、踏み外してバランスを崩
すと、腰痛につながる可能性があります。

- 台車などの道具を使用**するようにしましょう。道具を使
用するのが難しい場合は、ひとりで持ち上げず、誰か
に手伝ってもらおう声をかけましょう。
- 荷物を床面から持ち上げる際は、荷物に近づいて、しゃ
がんだ状態で抱え、ひざを伸ばして立ち上がるなど、
適切な作業姿勢・動作を意識しましょう。
- 無理のない範囲での**ストレッチ**も効果的です。

全国と同様に、山梨県内においても仕事中に転倒して被災する労働者は労働災害で最も多く、平成20年以降は常にトップとなるとともに、令和4年には新型コロナウイルス感染症の504人を引いた908人中、277人(30.5%)で、山梨県内における休業4日以上労働災害の3割以上を占め、過去最高となりました。特に年代が高い労働者が転倒した場合は重症化する割合が高くなっています。転倒災害はどのような職場でも発生する可能性があることから、事業主及び働く全ての人々が常に問題意識を持ち、職場環境の整備、安全教育等の災害防止対策に取り組むことが重要です。

以下のサイトを参考に転倒災害対策に取り組みましょう!



職場の安全を応援する情報発信サイト/
職場のあんぜんサイト

STOP!

転倒災害プロジェクト

転倒災害について
はこちら

転倒災害対策について
はこちら

転倒災害対策好事例
についてはこちら

